

48歳

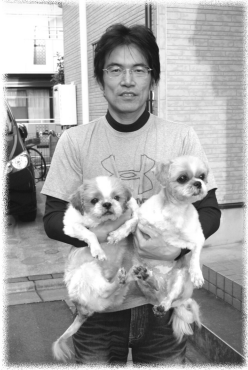
新しい出会いを楽しみたい

松田 伸宏 (鶴瀬西3)

大学在学中に始めた塾のバイトが楽しく本職にし、30年がたちました。教えることを模索していたときに出会った八杉晴実先生の著書「塾は学校を超えられるか」に感銘を受けた事が今の自分の土台になっています。

出来なかった事が出来るようになり、自信を持つことが出来た子どもたちの目の輝きを見た時に、この仕事の喜びを感じます。しかし、指導にあまりにも熱中し過ぎて、家族には呆れられています。

毎年たくさん子どもたちに出会い、そして別れがありますが、自宅で塾をやっていることもあり、卒業生が時々顔を出して元気な様子を報告してくれます。今年はどう



んな出会いがあるのかとても楽しみです。

72歳

何事もない平和な日々を

山田 永遠子 (関沢2)



富土見市民に仲間入りさせていただき30年余り過ぎました。地域の優しい方々に包まれながら、楽しい日々を過ごさせていただき感謝です。これからも精一杯(う)まく乗り越えていきたいと思っています。

そして、近年は、自然災害があらゆるこちらで身につまされるように起こっておりですが、富士見市はお陰様で無事に暮らすことが出来ることを幸せに思います。

今年は何事もない平和な日々が続くことをお祈りいたします。

84歳

夢を追いたい

滝澤 いな子 (鶴瀬西2)

水曜学級(高齢者の集い)に入って24年目を迎えました。たくさんの人との出会いもあり、共に学習をし、共に語らい、支えあい、行動し合って楽しい第二の人生を過ごしてきたと思います。7年前からちぎり絵サークルが発足したので、私も参加してたくさん作品を仕上げてきました。

出来上がった作品を部屋に飾り自画自賛しつつ悦に入っています。

この年になりますと体調も万全ではなく知力も落ちて来ていますが、皆さんの笑顔と元気をもらって、今年もつつがなく西交流センターへ通えますようにと願っています。



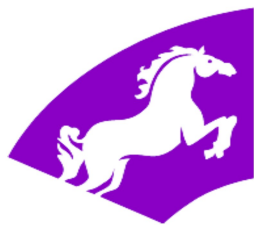
午・午年豆知識

「午」の本来の読みは「マ」。「杵」の原字で、上下に交差し、餅をつく杵を描いたもの。

十二支の中間に位置し、草木の成長期が終わり、衰えを見せ始めた状態を表したものと考えられます。これを「馬」としたのは、庶民に浸透させるために動物の名をあてはめたとされています。

(「語源由来辞典より」)

十支は、年・日・時刻・方位などにあてられて、広く日本で使われてきました。「午」は干支の7番目。方角は南。時刻は午の刻(11時〜13時)を意味しています。



今日の日本では、生活との関わりが希薄になっていますが、午の刻(ひつたりを「正午(風の12時)」と呼び、正午より前を「午前」、後を「午後」ということなどは、当たり前に使われています。

ちなみに23時〜1時は子の刻、真夜中の12時は「正子」。北は「子」なので、南北を結ぶ線・経線は、「子午線」と呼ばれています。